Gerhard Richter
90th Anniversary of His Birth 60years of Creation

生誕90年、画業60年。待望の個展

Gerhard Richter
ゲルハルト・リヒター展

Gerhard Richter
90th Anniversary of His Birth 60years of Creation

6.7 TUE. — 10.2 SUN. 2022

《ビルケナウ(1932-2)》 油彩、キャンバス、2014年、260 x 200cm ©Gerhard Richter 02022 (07060022)

会期：2022年6月7日(火)～10月2日(日)　会場：東京国立近代美術館　主催：東京国立近代美術館、朝日新聞社　後援：ドイツ連邦共和国大使館、在日ドイツ商工会議所
特別協力：ゲルハルト・リヒター財団、ワコウ・ワークス・オブ・アート　協力：小川香料ホールディングス、ルフトハンザ カーゴ AG、同建工事

ドイツと日本 Zukunft gestalten ともに未来へ

開館時間：10:00-17:00(金・土曜は10:00-20:00) ※入館は閉館30分前まで　休館日：月曜日(ただし7月18日、9月19日は開館)、7月19日(火)、9月20日(火) ※開館情報は変更になる場合があります。※ご来館前に無監査公式サイト等で開館日時や観覧料等の最新情報をご確認ください。観覧料：一般 2,200円、大学生 1,200円、高校生 700円　※いずれも当館常設品。※中学生以下、障害者手帳をご提示の方とその付添者(1名)は無料。※未来の観覧料で入館当日に限り、持特別展の所蔵作品展「MOMAT コレクション」もご覧いただけます。アクセス：東京メトロ東西線「竹橋駅」1b出口 徒歩3分　〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園3-1　お問い合わせ：050-5541-8600(ハローダイヤル)　展覧会公式サイト：https://richter.exhibit.jp/

MOMAT 東京国立近代美術館
The National Museum of Modern Art, Tokyo

Gerhard Richter
90th Anniversary of His Birth 60years of Creation

東京国立近代美術館で今夏開催
現代アートの巨匠、ゲルハルト・リヒター　待望の個展

東京国立近代美術館、朝日新聞社は 2022 年 6 月 7 日（火）から 10 月 2 日（日）まで、ドイツ生まれの現代アートの巨匠、ゲルハルト・リヒターの個展を開催いたします。日本では 16 年ぶり、東京では初となる美術館での個展です。

リヒターは油彩画、写真、デジタルプリント、ガラス、鏡など多岐にわたる素材を用い、具象表現と抽象表現を行き来しながら、人がものを見て認識するという原理に、一貫して取り組み続けてきました。

画家が 90 歳を迎えた今年 2022 年、本展では画家が手元に置いてきた初期作から最新のドローイングまでを含む約 110 点によって、一貫しつつも多岐にわたる 60 年の画業を紐解きます。

(937-1)　(937-2)　(937-3)　(937-4)

《ビルケナウ》 油彩、キャンバス　2014 年　各 260×200cm

みどころ

1. 現代アートの巨匠、待望の大規模個展

リヒターの日本の美術館での個展は、2005-2006年にかけて金沢21世紀美術館・DIC川村記念美術館で開催されて以来、実に16年ぶり。また東京の美術館での大規模な個展は今回が初めてとなります。

2. 最新作を含むリヒター所蔵の作品で、60年におよぶ作家の画業をたどる

2012年のオークションで存命作家の最高落札額（当時／2132万ポンド＝約27億円）を更新するなど、世界のアートシーンで常に注目を集めてきたリヒター。彼が手放さず大切に手元に置いてきた財団コレクションおよび本人所蔵作品より、最新作のドローイングを含む貴重な作品約110点が、初めて一堂に会します。これらの多様な作品を通じて、2022年に90歳を迎えた画家の、60年におよぶ画業をたどります。

3. 近年の大作《ビルケナウ》、日本初公開

幅2メートル、高さ2.6メートルの作品4点で構成される巨大な抽象画《ビルケナウ》は、ホロコーストを主題としており、作家自身にとっても重要な位置を占める作品です。近年の重要作品と目され、出品作内で最大級の絵画作品である本作が、この度、日本で初めて公開されます。

リヒター近年の最重要作品、《ビルケナウ》

ホロコーストというテーマを下敷きとした、4 点の巨大な抽象画からなる作品、《ビルケナウ》（2014 年）。見た目は抽象絵画ですが、絵具の下層には、アウシュヴィッツ・ビルケナウ強制収容所で囚人が隠し撮りした写真を描き写したイメージが隠れています。

リヒターは 1960 年代以降、ホロコーストという主題に何度か取り組もうと試みたものの、この深刻な問題に対して適切な表現方法を見つけられず、断念してきました。2014 年にこの作品を完成させ、自らの芸術的課題から「自分が自由になった」と感じたと作家本人が語っているように、リヒターにとっての達成点であり、また転換点にもなった作品です。

本展ではこの絵画と全く同寸の4点の複製写真と大きな横長の鏡の《グレイの鏡》とともに展示されます。日本では初公開となるこの機会に、ぜひご覧ください。

《ビルケナウ》2016 年 バーデン=バーデンでの展示風景 Photo: Volker Naumann

ゲルハルト・リヒター（Gerhard Richter）

1932 年、ドイツ東部、ドレスデン生まれ。

ベルリンの壁が作られる直前、1961 年に西ドイツへ移住し、デュッセルドルフ芸術アカデミーで学ぶ。コンラート・フィッシャーやジグマー・ポルケらと「資本主義リアリズム」と呼ばれる運動を展開し、そのなかで独自の表現を発表し、徐々にその名が知られるように。

その後、イメージの成立条件を問い直す、多岐にわたる作品を通じて、ドイツ国内のみならず、世界で評価されるようになる。

ポンピドゥー・センター（パリ、1977 年）、テート・ギャラリー（ロンドン、1991 年）、ニューヨーク近代美術館（2002 年）、テート・モダン（ロンドン、2011 年）、メトロポリタン美術館（ニューヨーク、2020 年）など、世界の名だたる美術館で個展を開催。現代で最も重要な画家としての地位を不動のものとしている。

Photo: Dietmar Elger, courtesy of the Gerhard Richter Archive Dresden

展覧会構成：テーマでたどるリヒター作品

会場では、初期のフォト・ペインティングからカラーチャート、グレイペインティング、アブストラクト・ペインティング、オイル・オン・フォト、そして最新作のドローイングまで、リヒターがこれまで取り組んできた多種多様な作品を紹介。特定の鑑賞順に縛られず、来場者が自由にそれぞれのシリーズを往還しながら、リヒターの作品と対峙することができる空間を創出します。

ーフォト・ペインティング

《モーターボート（第 1 ヴァージョン）（79a）》
油彩、キャンバス　1965 年　169.5×169.5cm

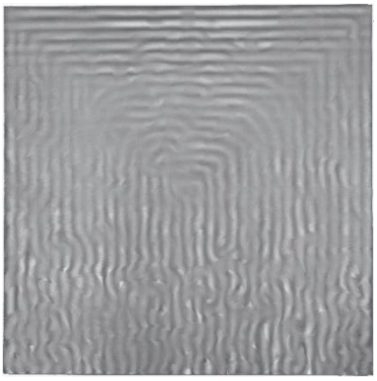
写真を忠実に描くことで、絵画を制作する上での約束事や主観性を回避し、代わりに写真の客観性やありふれたモチーフを獲得する「フォト・ペインティング」と呼ばれる絵画のシリーズのひとつです。刷毛で表面を擦ることで生じた「ぼけ」は、絵画と写真とのあいだで、イメージのもっともらしさや客観性とは何かと考えさせます。

ーカラーチャート

《4900 の色彩（901）》
エナメル、アルディボンド、196 枚のパネル　2007 年
680×680cm　パネル各 48.5×48.5cm

1966 年に初めて制作された「カラーチャート」シリーズに連なる作品です。当初は、絵具の見本帖をもとに描かれましたが、この作品は 25 色で校正された約 50cm 四方の正方形のカラーチップ、全 196 枚からなり、空間に合わせて異なる組み合わせで展示されます。その並びによってなんらかの像や意味が生じることはありませんが、鮮烈な色彩の印象を見る者に与える作品です。

ーグレイペインティング



《グレイの縞模様（192-1)》
油彩、キャンバス　1968 年　200×200 cm

1960 年代後半に始まった、グレイの色彩で画面を覆うシリーズについて、リヒターはグレイの色彩を”なんの感情も、”連想も生み出さない” ”「無」を明示するに最適な” 色と表現しています。しかしグレイといっても作品によって色の調子や筆致が微妙に異なり、豊かなヴァリエーションを生み出しています。

ーアブストラクト・ペインティング

《アブストラクト・ペインティング（952-2）》
油彩、キャンバス　2017 年　200×200cm

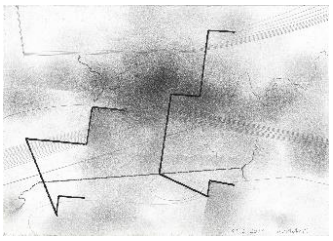
「アブストラクト・ペインティング」は、1976 年以降、40 年以上描き続けられているシリーズです。80 年代中頃にリヒターは大ぶりなスキージ（へら）で絵具を塗り、そして削るという技法を確立しました。近年では小さなキッチンナイフも用いることで、これまで以上に細やかな調子の変化を画面に見てとることができます。

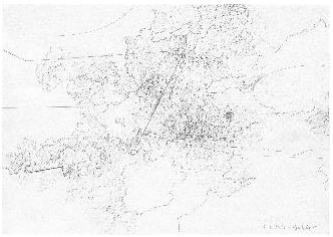
ーオイル・オン・フォト

上《1998 年 2 月 14 日》　油彩、写真　1998 年　10.0×14.8 cm
下《2014 年 12 月 8 日》　油彩、写真　2014 年　10.0×14.8 cm

「オイル・オン・フォト」とは、1980 年代後半から作られ始めた、写真に油絵具などを塗りつけたシリーズです。ほとんどの場合、日付が作品名になっています。絵具は写真のイメージを覆い隠し、物質的な存在感を強調します。一方、写真の再現性に比してその上に塗布される絵具はいつも抽象的です。写真と絵具が混じり合うことなく、同一の平面上に並置されるこのシリーズは、小さいながらもリヒターの創作の核心を端的に提示してくれるものでしょう。

ードローイング





上《2021 年 8 月 17 日》　グラファイト、紙　2021 年　21×29.7cm
下《2021 年 6 月 1 日》　グラファイト、紙　2021 年　21×29.7cm

一般的にドローイングとは絵画を描くための下絵、あるいは構想といった役割を果たすことが多いですが、今回出品されるリヒターのドローイングは、断片的な線や面を画面全体に配した、抽象的なものです。抽象的なドローイングは《アブストラクト・ペインティング》を開始した 1976 年以降、断続的に描かれるようになりました。製図のような直線、円、細やかな陰影は、何かを表しているわけではないようですが、じっと眺めていると、風景のようにも見えてきます。

All images © Gerhard Richter 2022 (07062022)

Gerhard Richter
90th Anniversary of His Birth 60years of Creation

開催概要

会 期 会 場　2022 年 6 月 7 日(火) ～2022 年 10 月 2 日(日)　東京国立近代美術館
開館時間 10:00-17:00（金・土曜は 10:00-20:00）＊入館は閉館 30 分前まで
休館日：月曜日［ただし 7 月 18 日、9 月 19 日は開館］、7 月 19 日(火)、9 月 20 日(火)
アクセス：東京メトロ東西線「竹橋駅」1b 出口 徒歩 3 分
〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園 3-1
お問い合わせ：050-5541-8600（ハローダイヤル）
美術館ウェブサイト：https://www.momat.go.jp

主　　催　東京国立近代美術館、朝日新聞社

後　　援　ドイツ連邦共和国大使館、在日ドイツ商工会議所

特 別 協 力　ゲルハルト・リヒター財団、ワコウ・ワークス・オブ・アート

協　　力　小川香料ホールディングス、ルフトハンザ カーゴ AG、岡建工事

公 式サイト　https://richter.exhibit.jp/

巡 回 情 報　2022 年 10 月 15 日(土)～2023 年 1 月 29 日(日)
豊田市美術館：https://www.museum.toyota.aichi.jp/

※展示作品、会期、休館日、開館時間等については、今後の諸事情により変更する場合がありますので、展覧会公式ウェブサイト等でご確認ください。

観　覧　料

一般　2,200 円	大学生　1,200 円	高校生　700 円

※いずれも消費税込。
※中学生以下、障害者手帳をご提示の方とその付添者（1 名）は無料。
※本展の観覧料で入館当日に限り、同時開催の所蔵作品展「MOMAT コレクション」もご覧いただけます。
○ 東京国立近代美術館（当日券）、オンライン（日時指定券）にて販売。
○ 詳細は、展覧会公式サイトにてご案内予定。

報道関連のお問い合わせ先

「ゲルハルト・リヒター展」広報事務局（ユース・プラニング　センター内）
〒150-8551 東京都渋谷区桜丘町9-8　KN渋谷3ビル4階
Tel: 03-6826-1245　Fax: 03-6821-8869　E-mail：richter2022@ypcpr.com